

# 共同礼拝

2024年1月14日(日) 午前10時30分

午後4時

司式 牧師 高橋和人

奏楽 市橋佳子

前 奏

招 詞 詩 編 96編1～2節

讃 詠 546

主の祈り

聖 書

レビ記 18章1～5節 (旧190)

マタイによる福音書19章13～30節(新37)

祈 禱

使徒信条

讃 美 歌 28

説 教 「誰が救われるか」 牧師 高橋和人

祈 禱

讃 美 歌 285

青年祝福式

献 金

頌 栄 542

祝 禱

後 奏

起立が困難な時は着席のまま礼拝します。  
礼拝は前の方から静かに着席しましょう。

## 1月の祈り

新年を迎え、御言葉を道しるべとする歩みが進められるように。

被災地の人々が守られ、その悲しみと不安が和らげられ、早い回復が与えられるように。救援にあたる人々の働きが力づけられるように。

被災地の教会の伝道者・信徒が守られ、教会の復興が支えられるように。

高齢で、また、体調などにより礼拝に集うことが出来ないでいる兄弟姉妹たちを覚えて。

戦争と紛争の地に平和がもたらされるように。

## 今日の祈り

現代の高度に発達し複雑な時代を生きる若い世代の人々が、位置付けられ、拠り所を持ち、自信を持ち、それぞれにふさわしい道が与えられるように。

教会の信仰を継承する新たな世代が祝福され、その信仰と生活が力づけられるように。

能登半島の震災の被災者、また教会と教会員が守られるように。

病を負う人たちに回復が与えられるように。

「誰が救われるか」 高橋和人

マタイによる福音書19章13～30節

主イエスは子どもたちを「天の国はこのような者たちのものである」と招き、祝福された(18:1)。

一人の男が主に近づく。彼は永遠の命を得るために何をすればよいかを尋ねる。彼はたくさんの財産を持ち、おきてを守って来た。主は彼に持ち物を売り払い、自分に従うように命じる。その青年は悲しみながら立ち去る。執着し、捨てること、従うことが出来ない。その悲しみは深く「心を痛める」。

主は弟子たちに「金持ちが神の国に入るよりも、らくだが針の穴を通る方がまだ易しい」と言われる。「だれが救われるのか」と驚く弟子たちに「それ

は人間にできることではないが、神は何でもできる」と答えた。救いは神の御業による。

ペトロは自分が何もかも捨てて従うので、それに対し与えられるものを聞く。主イエスは新しい世界になり主が統治される時共に治めるといふ。そして、「わたしの名のために」自分のものを捨てたものは百倍もの報いを受けると言われた。

これらの対話の深さは、主の十字架によって明らかになる。この青年は自分の持っているものに加えて神の国に入る資格を求めた。人は手に入れることを目標に生き躍起になる。主はついてくるために捨てることを求める。生き方を逆転することになる。求めるものは捨てねばならない。

ペトロは捨てて従ったという。ペトロは妻を連れて伝道した。それよりも、十字架の前に主に従うことができなかった(27:74)。とっさに自分を選んでしまった。そして悲しみに激しく泣いた。弱さから主を捨て、主に従う道を閉ざしてしまった。

生きている間に得たものは失われる。財産から家族まで。一方で人は捨てられるのみだ。自分のものからも、この世からも自分の人生からも。失われ、忘れられる。それは悲しいし、むなしい。

主イエスは神の身分を捨て(フィリピ2:6)自ら捨てられたものとなられた(27:46)。それは神のみお出来になることだ。人の悲しみをご自分の悲しみとされ、弱さや、執着に現れる罪を負ってくださった。

それは、罪人を子どものように招かれるためだ。主に招かれて主のものとなる。それは失われることなく奪われることもない。この主の名による救いに与ることで、従うこと捨てるものが見えてくる。

後にいる者が先になる時、主を否んだペトロにも立ち直る時が与えられた。悲しみに立ち去ったものにも、従う道が与えられる。